

# 創政会先進地視察報告書

## 1 視察先・目的

栃木県日光市  
本庁舎整備事業について

## 2 期 間

平成30年11月16日

視察報告書

日 時	平成 30 年 11 月 16 日（金）午後 1 時から午後 3 時まで
視 察 先	栃木県日光市
視 察 項 目	本庁舎整備事業について
視 察 者	創政会（伊藤清一郎、竹内慎治、林 秀人、伊藤正治、渡邊眞弓、伊藤公平、江端菊和、勝崎泰生）
視 察 内 容	<p>日光市本庁舎整備検討市民委員会がまとめた、新しい日光ブランドを創出するまちづくりの拠点をつくるコンセプトをもとに、市民活動の活気がにじみ出るような市民交流スペースを配置し、地域に開かれたにぎわいの場・市民活動の場、情報発信・提供の場の拠点となるスペース等を計画するなど市民目線の新庁舎となっている。</p> <p>新しい日光のまちづくりの拠点となる新庁舎のコンセプトを始め、市民に開かれた交流の拠点となり、市民が利用しやすく業務効率が高くなるように工夫された間取り、高い耐震性を確保した災害時に有効的に機能する活動支援スペースの配置、自然環境に配慮した省エネ設計をしている。</p> <p>今市市、日光市、藤原町、足尾町、栗山村の 5 市町村が合併し、「日光市」が誕生し、旧自治体の組織の一体化を目指す矢先の 50 年に一度の新庁舎建設において、単なる建替えではなくコミュニケーションを向上させ、働き方を変えるチャンスとして取り組んでいく。移転後の旧庁舎の解体についてもアスベスト撤去などが課題となっている。</p>
所 感	<p>庁舎ハードについては、大変有効なスペース配分だと感じた。議場については、多目的化も検討され、よりコンパクトで利便性を考えたづくりを目指したことがうかがわれた。環境にも配慮し、風を利用した換気、雨水をトイレの洗浄水などに利用するための地下ピット、太陽光発電、開口面積を抑えた横連窓の採用により建物強度の確保と日射負荷を軽減、執務室の床吹き出し型居住域空調の導入、地中熱利用の「クール&amp;ヒートトレンチ」など最新の技術は参考になった。また、利用者の居心地を考慮した、広い待合スペース、情報発信の場ともなる「街角プラザ」のスペースや災害時に有効利用できるスペースの確保なども参考になった。執務スペースの一人ワンデスクをワンキャビネットにして、スペースの有効活用と見える化の配慮は大変よいと感じた。</p> <p>日光市の庁舎建設に当たって特筆するところは、庁舎整備検討市民委員会がまとめた基本コンセプトは、各委員の様々な意見をできる限り反映させて作成した所である。また、庁舎の建物に市有林のスキなどを活用し、温かみのある庁舎となっている。</p> <p>現在、本市においても庁舎整備に向けて検討しているところであるが、市民が使いやすい市役所となるよう、日光市の取り組みを参考にしながら進めていきたい。</p>